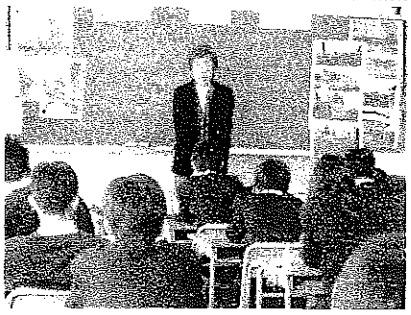
菅生中学校区地域教育会議ニューズレター(42)　　2007年6月11日(月)

とらいあんぐる菅生

発　行：菅生中学校区地域教育会議
編　集：情報委員会
当番校：菅生小学校　TEL：977-0953
事務局：菅生こども文化センター
http://sugao-ky.hp.infoseek.co.jp　E-mail:akaiyanedayo@mx71.tiki.ne.jp　TEL&FAX 976-0444

菅生中学校 地域住民による"特別授業"実施



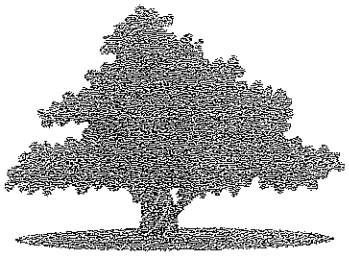
2月19日、当地域教育会議生涯学習委員長であり、グラフィックデザイナーの工藤文比古氏による特別授業が、菅生中学校3年生を対象に実施された。

始めはクラス別授業。テーマは「菅生のまちづくり」。事前に生徒たちは地域の好きな場所を撮影していて、それをもとに教壇に立った工藤氏のグラフィックデザイナー的見方と生徒たちとのキャッチボールが始まった。

あるクラスで生徒たちは、菅生が好きな理由として「コンビニが便利」「緑が多い」からと。それに対し工藤氏は「高層ビルもない。最寄の駅へはバス。それでも好きか」と問う。生徒たちは「そこがいい」と応じる。「便利がいい、不便でもいいという意見は、一長一短がありどちらにも失うものがある。しかし、世界中の流れは『不便でもいい』が主流で、これを『ロハス』(註1)という」などと工藤氏の話は続いた。

続いて、3年生全員が集まりグループ討議。テーマは「いじめのない学校づくり」。まず工藤氏から「自然をおもいやりやさしい気持ちをもつよう、学校の校庭の真ん中に大きな木を植えてはどうか」と、既成概念を打ち破る提案が投げかけられた。生徒たちからは、グループ討議の中で「クラスの境をなくす」「学年別を取り払う」などたくさんの意見が出され、環境面の視点からいじめをなくすことを考える機会となった。

(註1)ロハス(LOHAS) =Lifestyles of Health and Sustainability の頭文字をとった略語。健康と環境、持続可能な社会生活を心がける生活スタイルのこと。



授業を終えて

菅生中学校　金井則夫校長談

子どもたちは、教師に教わることは慣れてしまっているが、地域の人から何かを学ぶということは新鮮で刺激になったと思う。

学校の授業とは別の興味を持つことにより、子どもたちから「やる気」や「能力」を引き出したい。

また、地域にいろいろな人材がいることを知り、子どもたちが地域に対して愛着を持つと共に、地域の人たちからも支えられているという認識をもつことにより、自信と責任をもって行動できるようになってもらいたい。

一日講師　工藤文比古氏談

一日講師の私に子どもたちは素直に反応してくれた。こちらからボールを投げるといろんなボールが返ってきた。「校庭のど真ん中に大樹を植える」という私の提案に対しては、「樹を植えただけではいじめはなくならない」、「いじめをなくすには、教室をガラスばりにして開放的にする」など。

教師にはどういう真剣なボールを投げることができるかが求められる。エンタテイメント性や時代の空気を読み、子どもたちを触発するというサービス精神が大事だと感じた。

平成18年度 授業評価の結果まとまる

■授業評価の意義

地域教育会議生涯学習委員会・ＰＴＡ・学校と３者が協力をして菅生中学校、稗原小学校において、授業を受けた子どもたちの感想、参観した保護者の感想などのアンケートを実施しました。その結果が、３月１日付けでまとまりました。

実施に向けては、これまでの地域教育会議を中心にした取り組みをもとに、まずは「子どもたちのために必要な学校の教育力とは何か」をお互いに話し合い、共通理解することから始まりました。そのためには、教職員、保護者の方々の理解が何よりも大切であったのは言うまでもありません。

現在、様々な場面で情報の開示や手続きの透明性の確保が求められており、営利を追求する企業であっても、社会的な責任において経営内容の公表や外部監査の結果の公表が求められています。公立の小中学校では、施設開放など市民に広く門戸を開き、地域コミュニティの場として機能していますが、一義的には義務教育を行う場ですから、施設の開放以上に授業のありようが広く市民に公表される必要があります。

その意味で、今回のアンケート結果が公表されることは、生徒たちの声を教師が受けとめることであり、新しい歴史が歩みだされたものと言えます。

■実施結果

中学校では、教科ごとに授業評価がまとめられています。生徒たちの先生に対する授業評価では、授業の狙いの説明・学習意欲の喚起・説明の理解・わからない生徒へのフォロー・生徒意見の傾聴、の項目があり概ね良い評価を得ています。しかし、その評価の中で「わからない生徒にもていねいに教えた」という項目に対しては、各教科共に厳しい評価が下されています。

一方、生徒が自分自身を評価する項目として、学習の準備・ねらいをもっての学習・興味をもてた・先生の話への傾聴・授業参加への積極性・内容の理解、があげられていますが、この中で厳しい評価が下されているのは「ねらいをはっきりもって学習できた」という項目です。同じ生徒が、先生への評価として「授業のねらいをはっきり説明してくれている」と言っているのにも関わらず、なぜか自分では「ねらいをはっきりもって学習しきれていない」とも言っています。

小学校では、先生への子どもたちの評価として、授業はわかりやすい・みんなの発言を聞く・黒板の字・ていねいに教えてくれる、と概ね良い結果でしたが、「できないときは励ましてくれる」という項目では、約半数近くの子が「思わない」と回答しています。また、自分自身への評価で「考えをよく発表している」の項目では半数以上が「そう思わない」と回答しており、特に６年生になると75%にもなっています。

■今後の課題

中学校区内の全ての学校が参加できる状況を創出する必要があります。また、授業評価は学校評価の一部であり、評価枠の拡大も検討する必要がありそうです。今回、第一歩が踏み出されましたが、アンケートが今後の授業内容の充実につながる契機となればと思います。

菅生中学校区子ども会議
みんなでまちづくりプロジェクト

子どもの視点でまちづくりを考える子ども会議が再開しました。５月24日午後、ファシリテーターの大枝奈美さん、向井清二さんを招いて、まちづくりのイメージを広げるためのワークショップを行いました。当日は１～３年生まで12人が参加し、自分たちでできることなどを考え、今後の活動につなげていけそうなアイディアが集まりました。今年も中学生を中心に実行委員会形式でほぼ毎月１回ずつミーティングを進めていきます。関心のある中学生はぜひ参加してください。

問合せ：辻（菅生中学校）／生駒（事務局 976-0444 菅生こども文化センター）

報告　川崎には市民の力で運営する地域教育会議があります
――第３回地域教育会議交流会――

相互の交流と市民への紹介を兼ねて毎年行われている全市の交流会も、３回目をかぞえる。今年は２月24日(土)，高津市民館で実施され、初めてパネルディスカッションが、併せて同ギャラリーで前後一週間のパネル展示会も開催された。

今回、中学校区代表として菅生の芝原議長がパネラーとして参加。「学校と地域教育会議」と題して、地域・学校・地域教育会議の連携を軸に、地域教育会議のこれからのあり方を考えるというもの。

コーディネーターは宮前区地域教育会議川西議長。

江頭氏(元総合教育センター所長)は「1980年代の教育への要求から、地域教育会議が発足した経緯を説明し、また地域教育会議は今後さらに力を発揮すべき立場にある」ことを強調した。

渡邉校長(川崎市立中学校長会・長沢中学校長)は「学校教育は学校だけではやっていけない。地域の協力は不可欠である」とし、３・４名の教員を地域担当として組織対応しているとの事例を発表。

新井氏(高津区地域教育会議議長)は行政区の立場から、まとめ役としての必要性を述べた。

宮越氏(臨港中学校区地域教育会議事務局長)は８年間にわたる地域教育会議職業体験の事例を発表。子どもたちへの教育効果は想像以上であり、地域・学校・子どもたちの相互理解と協力体制が確立され、まち全体がより良く改善されていると結んだ。

菅生中学校区へは、先進的な学校評価への取り組みが注目され、芝原氏の発表に対して、他校区におけるサンプルとしての有効性に期待が高まっているとの声が集まった。

生涯学習委員会　シンポジウム

地域と学校の運営協働参画元年

企画中

8月29日(水)
ＪＡセレサ川崎菅生支店２階会議室
15：00～17：00

○●分科会●○

1　**学力向上と地域と学校の協働について**
2　**学校評価と学校の説明責任について**
3　**部活の効能と今後の課題について**

現在、これらの分科会を予定しています。懇親会も計画しており、ぜひ多くの方のご参加をおまちしています。

報告　宮前市民館：学社融合推進事業
「中学生にとっての職業体験とは？」から

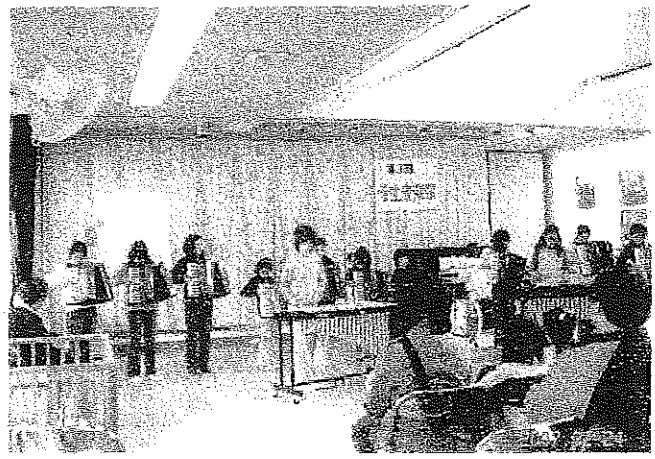
２月20日、「中学生にとっての職業体験とは？」が開催され、経済産業省のキャリア教育プロジェクトを担ってきたＮＰＯ法人「キーパーソン21」の代表である朝山あさ子さんのお話と、ワークショップ、日比野先生による菅生中学校における職業体験の報告がありました。

菅生中では「地域」をキーワードに、１年生から３年生までの総合的な学習の時間の中で、２年生を中心に職業体験を実施しています。地域の応援団のお蔭もあり、協力事業所は毎年40箇所にも。中学生は４人ずつに分かれて３日間それぞれの事業所で職業体験をします。子どもたちのキャリアアップをめざし、平成17年度から「キーパーソン21」の協力を得て、職業体験の一環として１年生の時からワークショップを中心としたキャリア教育プログラムを実施してきました。楽しみながら将来について考える機会になっており、「子どもたちは元気になり、表情もとてもいい」と日比野先生。

朝山さんは中原区の元ＰＴＡ委員で、３人の子どもの母親。長男が中３のとき「高校へ行く意味がわからない」と言ったことが「キーパーソン21」を立ち上げるきっかけになったとのこと。「子どもたちが夢を持てるように、楽しく将来のことを考えられるように応援していきたい」と話していました。

今回の受講生は中学校の教員、保護者など15名ほど。中学生が体験したワークショップを、中学生になったつもりでやってみました。自分の好きなものをどんどん出していき、どんな職業があるのか発想していく楽しいゲーム。「好きなことから将来を考えることができるので夢が広がりそう」と受講生。話し合いの中で、ある中学校の先生は「職業体験が進路を決めるきっかけになることもある。職業体験の場を地域で確保するには地域教育会議などが中心になってデーターバンクを作ってもいいのでは。こうした活動をよくしていくためには保護者の理解が大切」と話していました。

第3回 菅生音楽祭



音楽を通じ、年齢を超え、地域の交流を深めようと開催している「菅生音楽祭」。2月24日に開催され、第3回を迎えた。開催に当たっては、小中学校はじめ地域の皆様のご協力をいただき、多くの人と感動を共にしている。

子育て支援センターを会場に行われた演奏会では菅生・稗原小学校、蔵敷子ども太鼓連など6組が参加。今回は、予定していた菅生中学校吹奏楽部がインフルエンザのため急遽不参加となったのは残念だったが、それでも大いに盛り上がり、最後には大人も子どもも一緒になりキヨシのズンドココラボレーションを踊り楽しんだ。

一方の会場は蔵敷こども文化センター。昔遊びや缶バッチを作ったり、災害米や豚汁を食べたりして楽しんだ。

参加者は、子育て支援センターに300名、蔵敷こども文化センターに250名。のべ550名という、まさに地域の祭に相応しい多くの方々に来ていただくことができた。

地域情報

子どもたちの安全を最優先に!!
工事期間中に大型トラックが244台も

◈フコク生命グランド跡地に有料老人ホームが・・・

菅生中学校から尾根伝いに鷲ヶ峰西住宅の方に歩いてくると防衛省研究所の垣根が切れたところの右側に広がるのがフコク生命グランド。そこに、5階建ての有料老人ホームを建設するそうです。グランドから多摩区の方に下ったテニスコート場跡地には3階建て。合わせて520戸の建物になる予定です。

工期は、現在の建物を平成19年10月から解体し始め、新しい建物が完成するのは平成22年3月とのことです。

◈事業説明会によると

3月30・31日、4月12日に菅生こども文化センターで、業者からの事業説明会がありました。

今まで平面だったグランドから一挙に5階建ての建物が建つのですから、様々な問題が懸念されます。グランドの北側は日影の問題が、北西側は電波障害の問題が、そして老人ホームで井戸を汲み上げると現在使用中の井戸水が涸れるのではと、近隣の多くの皆さんは心配しており、少しでも高さを抑えることは不可能なのかとの意見が出されています。

◈広範囲な子どもに関わる問題として

この工事期間中、資材や残土を運ぶトラックが数多く地域を通過することになります。トラックの通行は蔵敷方面から稗原に抜けるとのことですが、鷲ヶ峰特別養護老人ホームから菅生こども文化センターの前を通り工事現場まで、盲腸のように1本道を行き来するそうです。

この道は、スクールゾーンになっています。また、尾根道は菅生中や稗原小に多くの子ども達が安全に通う通学路です。そこを大型トラックが横切ることになると子ども達の安全が心配です。

工事期間中、最大通行車両は122台だそうで、菅生こども文化センターの前の道は往復244台が1日に通過することになります。

◈不安がいっぱい―― 安全策は？

工事時間は朝の8時から夕方6時まで。その時間帯を244台通過すると昼休みなしで計算しても2.5分に1台が走っています。山の手線並みです。現在、車がすれ違うことがやっとの道に、これだけの車両が押し寄せたらどうなるのでしょう。

安全を確保するために、道路の拡張、歩道の確保の配慮がほしいと思いませんか？　せめて、通学時間帯に車両の通過を差し控えてほしいと思いませんか？

子どもたちの安全を最優先にしてほしいものです。